



NOTOCHO
能登町
×
GERMANY
ドイツ

日常・儀式・ダンス

KANAIWA
金石
×
KOREA
韓国

金石に伝わるあそび

北陸
HOKURIKU

Region

ダンスフェスティバル
DANCE FESTIVAL

2025



「体と感覚のワーク」を体験して
新しい世界をのぞいてみよう!

アーティスト
マリー・ハーネ

スペシャル
ワークショップ
参加者
募集

7/17 木
19:00~21:00

会場: 鶴川公民館

ほか、詳細は裏面へ



創作メソッドに触れて
フレッシュな感性に出会おう!

アーティスト
コ・イルド

スペシャル
ワークショップ
参加者
募集

7/16 水
19:00~20:30

会場: 金石町家(仮)

ほか、詳細は裏面へ

全国・海外から選ばれたアーティストが石川県各地に滞在し、地域住民と関わりながら創作・発表を行うアーティスト・イン・レジデンス(AIR)フェスティバル。地域の空き施設やオルタナティブスペースを活用し、アートを通じた地域交流や国際交流を実現。多様な表現に触れる機会をつくり、地域の魅力を再発見します。

主催: 北陸つなげて広げるプロジェクト 助成: 澁谷学術文化スポーツ振興財団、アーツカウンシル金沢、公益財団法人セゾン文化財団
協賛: 加賀建設株式会社、農家民宿 土とDISCO 後援: 金沢市、能登町

ア-リカウ-リル金沢

目次

事業について

[概要]	-----	3
[詳細]	-----	3
[実施スケジュール]	-----	3
[事業の目的]	-----	4
[主催団体「北陸つなげて広げるプロジェクト」経歴]	-----	4
[事業起案に至った理由・課題]	-----	4

活動報告

能登町×ドイツ	-----	5~8
金石×韓国	-----	9~11
[総評] 黒澤 伸	-----	12
[総評] 乗越 たかお	-----	13
[事業をを終えて] 宝栄美希	-----	14
北陸Regionダンスフェスティバル2025 機構	-----	15



成果発表公演より



成果発表公演より

[概要]

北陸唯一の公募型アーティストinレジデンス及びフェスティバル。全国から実力あるアーティストを公募/選考を経て採択し、石川県の「各地域」に招聘する。また海外からのアーティスト招聘枠を設け、地域の国際交流化を図る。

地方のオルタナティブスペースを活用した文化芸術活動を行う事で、地域住民が多様な表現を身近に感じられる場を作り、地域の人々を交えた活動によって地域振興および復興支援を行う。特に被災地では、アーティストと市民の対話の場づくりや体を動かすワークショップの開催など、被災した人々とともに心身をケアし活力を取り戻すための取り組みを行う。

それら活動の全てをWebサイトやSNSによって配信する事で、北陸や石川の今まで知られていなかった魅力および被災地の情報を世界に発信するとともに、被災地ではその現状を正しく伝え、必要な支援が行き届くような情報発信も行う。

[詳細]

- ・全国および海外よりアーティストを募り、石川県の能登地方(珠洲市・七尾市、他)や県内の様々な地域に招聘し、約一週間現地に滞在しながら地域のオルタナティブスペースを活用し、滞在制作を行う。
- ・アーティストの選定及び採択は、それぞれの地域にゆかりのある人々の意見を交えて行う。
- ・海外からもアーティストを招聘し、これまでコロナ禍で控えられていた国際交流を促進する。
- ・滞在先ごとに地域にゆかりのあるアーティストにサポートを依頼し、作品の共同制作を行いながらそれぞれの地域に適した活動内容に結びつけて実践する。
- ・アーティストと地域住民との対話の機会を設け、地域の文化や歴史の採掘と保護につなげるとともに、被災地では現地の人々の心のケアを行う。
- ・アーティストによるワークショップ等の開催により、地域の人々の身体的な健康の促進を図るとともに、被災者の活力を醸成する。
- ・滞在の最終日には制作作品の発表として公演を行い、また終演後にはアーティストと参加者・住民との交流の場を設ける。
- ・アーティストがその地域において行った活動を通して得られた感想、意見を元に、地域ごとの課題や可能性について、各地で関わった人々が一同に介する意見交換の場を設ける。
- ・事業終了後に記録映像を無料配信し、石川県及び北陸地方の新たな魅力として全国・世界に向けて発信するとともに、被災地の情報を伝える。

[事業実施スケジュール]

- R6、8月 New Dance for Asia視察、海外招聘アーティスト決定
～12月 滞在所視察
- R7、1月 滞在所/サポートアーティスト決定、技術スタッフ確保
1～2月 滞在アーティスト募集
- 3月 招聘アーティスト決定
- 3～4月 パブリシティ準備
- 5月 広報活動開始
- 5～6月 スタッフ打合せ・アーティストとの打合せ
- 6月 公演チケット等販売開始
- 7月 北陸Regionダンスフェスティバル2025実施
- 7～9月 映像編集・オンライン配信、事業報告書の作成

[本活動の目的]

本活動の目的は、日本全国から公募により募集した、多様な表現のオリジナリティと様々な経験を持つアーティストを県内の各地域に招き、コンテンポラリーダンスにより県内の地域と全国をつなぐと共に、地域コミュニティの活性化を担い、人々の心身の健康促進、観光や地域振興に繋げることである。

また、アーティストと現地の人々が文化交流する中で、地域社会に芸術的な刺激を与え活性化を促すこと、アーティストと現地の人々の双方に対して新しい視点やアイデアが生まれること、など、長期的に見ても持続可能な発展や活性化を地域にもたらすことも目的としている。

特に被災地(能登地方)では、地域住民の心のケア・コミュニティの再生・地域の文化や歴史の保存と伝承、など、被災地復興に寄与することを目的とし、被災者の方々の前向きなエネルギーを醸成するとともに、本事業を通して被災地の現状や必要な支援を広く発信し、外部からの適切な協力を得られるようにする。

また国際的な交流を通じ、被災地の復興支援に対する国際的な関心を引き寄せることも目的とする。

[主催団体「北陸つなげて広げるプロジェクト」経歴]

2015年北陸新幹線開通を機に発足、貴財団の助成によりIshikawa Dance Festivalを開催。

以降"アーティストと市民"が主体となり、「北陸地方唯一のコンテンポラリーダンスフェスティバル」として毎年ダンスフェスティバルを継続開催してきた。このダンスフェスティバル事業を通して、新進気鋭の若手ダンサーや、北陸にゆかりがあり海外でも活躍するアーティストなど、日本全国から合計約100組のアーティストを石川県に招き、金沢市内の劇場で作品上演を行った。令和5年11月には貴財団の助成を受け、通算9回目となるダンスフェスティバル事業開催を「いしかわ百万石文化祭2023(国民芸術祭)」の1プログラムとして行い、過去最大規模の北陸ダンスフェスティバル開催となった。

その他、コンテンポラリーダンスを知るためのレクチャーや市民参加型の作品の上演等、市民がより舞台芸術を身近に親しむことが出来る機会を作るため、事業内容に創意工夫を凝らしてきた。コロナ禍においては"無観客ライブ配信"や"鑑賞の新様式"に取り組みながら事業を継続し、石川県の舞台芸術の火を絶やさず、その発展へ貢献してきた自負がある。

劇場型ダンスフェスティバル事業の継続開催を行ってきたことで、石川県および北陸地方の魅力为全国の人々に伝えることができた。また着実にコンテンポラリーダンスを含む舞台芸術と市民の距離は縮まった。

一方で、継続故に見えてきた課題「地域の人々とアーティストとの壁」に取り組むため、貴財団の助成を受けて、今年度(令和6年)はアーティストが地域の"まち"に滞在して人々と関わりながら創作を行うアーティスト・イン・レジデンス(AIR)を事業内容とした「北陸Regionダンスフェスティバル」を企画し実施している。今後とも「この場でしか生まれなかつながりを築き、創造の力で発見や感動を生み出す」事業の実現を目指すと同時に、県内外の文化芸術の輪の広がりや繋がりを強化してゆきたい。

[事業起案に至った理由・課題]

これまで劇場型ダンスフェスティバル事業の継続により着実に成果を残してきた事は確かだが、石川県内の地方や地域の人々とのかかわりを広く、深く醸成するという点ではまだまだコンテンポラリーダンスの可能性を生かしきれていないという面がある。この課題を解決するべく、前回に引き続きAIR形式での「北陸Regionダンスフェスティバル」を実施する。

これまでに"前例"のないことをアートに触れる機会のなかった地域の人々に受け入れてもらうには、"前例"そのものを作っていく努力が必要であることを常に感じている。また、隣の地域で起こったことでも、実際に自分の地域で起こらなければその意味や価値を理解しにくい、という人々の特性もある。そのため、事業実施の必要性のある地域を探し、この事業を多くの場所で行うこと、そして継続しなければならないと感じている。

地域において、文化の多様性と豊かさの促進、創造性と表現力の育成、コミュニティの活性化、身体的な健康の促進、観光や地域振興の活性化、などに加えて「廃れていく地域の文化や風習などを掘り起こし、次世代に伝えていくこと」や「地域の新たな魅力を発掘すること」を、この事業が行なっていくべき取り組みだと思ふに至った。

また、令和6年1月1日に起こった能登の大震災により、前回は能登地方での事業実施を断念せざるを得ない状況となってしまった。その後も大雨などの災害が続き、様々な理由で復興が進まず、人々の生活再建への支援の課題も山積みではある。そのため、被災した人々の心身のケアにまで支援は行き届いていない状況がある。この課題に対して当事業は、来年度には能登地方での事業実施を実現させ、被災地復興支援の一環として地域住民の身体と心のケアの推進と地域の伝統文化の保護に努める活動を行うものである。

活動報告 [能登町×ドイツ]

制作場所：土とDISCO 滞在場所：義本邸
招聘アーティスト：マリー・ハーネ
サポーター：ちびがつつ 協力：SANA（土とDISCO女将）



土とDISCO

[プロフィール]

Marie Hahne (マリー・ハーネ)

1993年、ドイツ・ベルリン生まれ。ヴァイセンゼー芸術大学(ベルリン)で 舞台美術と衣装デザインを学び、その後、広島市立大学で 現代美術を専攻。2018年より、神奈川とベルリンを拠点に コミュニティアートおよびパフォーマンスアートの分野で活動を展開している。彼女の作品は、ストーリーテリング、動き、声、視覚的要素を融合させた「ハイブリッドな翻訳」を試みるものであり、しばしば演劇の要素を取り入れている。その創作空間は、観客が能動的に関与できる インタラクティブな舞台となる。作品の中では、親密な瞬間と皮肉な距離感の狭間に自ら身を置き、観客がより近づき、探求することを促す。

Web <http://mariehahne.com/>

[実施内容]

・ 鵜川小学校アウトリーチ

日時：7/16(水) 対象：全校生徒38名

・ スペシャルワークショップ①

日時：7/17(木)19:00~21:00 場所：鵜川公民館

参加費：無料 ※ドネーション

対象：一般市民・年齢問わず 参加人数：13名



鵜川小学校

・ スペシャルワークショップ②

日時：7/18(金)14:00~15:00 場所：土とDISCO 参加費：無料 ※ドネーション

対象：一般市民（ご年配向け）※誰でも参加可能 参加人数：8名程度

・ 成果発表パフォーマンス

日時：7/20(日)13:00~ 場所：土とDISCO 観覧料：無料 ※ドネーション

対象：一般市民 来場者人数：15名

タイトル「回復と発見 (Recovery and Discovery)」

作・出演：マリー・ハーネ サポート：ちびがつつ

照明：宮向 隆、北山 もも子

【創作ノート】

人生は私たちにさまざまな驚きをもたらします—そのすべてが嬉しいものとは限りません。しかし、視点を変えてみることで、困難が思いがけず「共に祝う場」へと変わることもあります。

この《Recovery and Discovery》は、能登での短くも深い滞在の中で生まれた作品です。私は地域の方々—4歳から77歳までの幅広い年齢の方々とともに、フィジカル・シアターやパフォーマンスアートを通して、能登の土地と時間を探索しました。

地震の爪痕が今も残る風景の中、青いシート、延期になった祭事、そして再建に向かうトラックの音が響く中で、喪失と再生、その両方にかたちを与えるパフォーマンスが生まれました。

Life surprises us in many ways — not all of them pleasant. But sometimes, turning a situation on its head allows hardship to transform into a space for shared celebration.

"Recovery and Discovery" is the result of a brief yet meaningful stay in Noto, where I had the chance to explore the region and delve into the world of physical theatre and performance art alongside local residents, ranging in age from 4 to 77.

In the aftermath of the earthquake, landscapes marked by absence and ongoing reconstruction — blue tarps, delayed rituals, and the constant hum of rebuilding — became the stage for a performance that gives shape to both loss and resilience.

レジデンシーレポート：北陸ダンスフェスティバル2025

マリー・ハーネ

プロジェクトタイトル：「回復と発見 (Recovery and Discovery)」

概要

「リカバリーとディスカバリー」は、石川県能登での短期間ながら非常に意義深いレジデンシーの中で生まれた作品です。このプロジェクトは、最近の地震がもたらした心と身体の風景を背景にしています。青いブルーシート、延期された祭礼、そして復興作業のトラックの一定のリズム——私たちが通り過ぎた場所には、喪失・回復する力・静かな決意が刻まれていました。

このレジデンシーを通して、4歳から77歳までの地域の方々と共に、パフォーマンスとフィジカルシアターを探求することができました。協働的なワークショップや身体を通したリサーチを通じて、災害後の状況を、共有の祝祭と創造的表現の場へと変換することを目指しました。

ワークショップと地域交流

このレジデンシーで特に印象深かったのは、高齢者向けに実施したワークショップです。大成功を収め、参加者の皆さんはとても開かれており、喜びに満ち、積極的に取り組んでくださいました。自身の快適な領域を超えようとする姿勢は、アートが世代を超えてつながりや活力を生み出す力を持つことを改めて実感させてくれました。現代パフォーマンスや実験的な身体表現に普段触れる機会の少ない方々にも、今後もこうした創造的な体験を提供し続けることに、大きな意義を感じています。

トークイベント

アーティスト・トークでは、「ダンスとは何か？」という問いを共有しました。私にとって、ダンスは生きている存在です。それは舞台上だけでなく、日常生活の中にもある「動き」です。ダンスは至るところに存在します。アートとは、日常の中に新たな発見をする行為だと私は考えています。何気ないものを、何度でも新鮮な目で見直す——そのプロセスこそがアートなのです。



鵜川小学校でのアウトリーチ

終わりに

このレジデンシーを実現してくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。私を信頼し、支えてくださり、創作の場を与えてくださってありがとうございました。この体験は、私の中に深く残るものとなりました。「リカバリーとディスカバリー」というプロジェクトが、能登の皆さんの心にも私と同じくらい響いていたらと願っています。



鵜川公民館でのワークショップ

Residency Report: Hokuriku Dance Festival 2025

Marie Hahne

Project Title: "Recovery and Discovery"



成果発表公演

Overview

"Recovery and Discovery" was developed during my short but deeply meaningful residency in Noto, Ishikawa, as part of the Hokuriku Dance Festival 2025.

The project was born out of the emotional and physical landscape left in the wake of the recent earthquake. Blue tarps, postponed rituals, and the steady rhythm of reconstruction trucks marked the spaces we moved through — spaces shaped by loss, resilience, and quiet determination.

This residency allowed me to explore performance and physical theatre together with local residents, aged between 4 and 77. Through collaborative workshops and embodied research, I sought to turn the post-disaster condition into a space for shared celebration and creative expression.

Workshops and Community Engagement

One of the most memorable parts of the residency was the workshop held for elderly participants. It was a resounding success. The participants were open, joyful, and fully engaged. Their willingness to step outside their comfort zones reminded me of the powerful role art can play in fostering connection and vitality across generations. I see great value in continuing to offer creative experiences to those who may not usually encounter contemporary performance or experimental movement practices.

Talk Event

During the artist talk, we explored the question: What is dance?

For me, dance is a living entity. It is movement, not only on the stage but also in everyday life. Dance exists everywhere. Art, to me, is the act of discovering something new in the ordinary. It is a process of seeing the familiar with fresh eyes, again and again.

Closing Thoughts

I am sincerely grateful to everyone involved in making this residency possible. Thank you for trusting me, supporting me, and giving me the space to create. This experience has left a lasting impression on me, and I hope the project "Recovery and Discovery" resonated with the community in Noto as deeply as it did with me.



成果発表公演

各関係者のコメント（事業報告会より）

サポーター ちびがっつさん

マリーさんのサポーターとして一緒に過ごす中で、リサーチ訪れた震災の影響を受けて寂しい感じのする禅のお寺や、小学校でのワークショップ、そして鶴川公民館で4歳から77歳までの人が参加したワークショップは少しカオスの様になりましたが、能登のいろんな表情を見ることができたと思いました。土とDISCOで行ったワークショップには60～70代の人が多く参加していてそれがすごく良かったです。皆さんすごくいいパフォーマンスをしてくれて、能登の人たちのいい雰囲気を感じました。地区ごとで細かく違って、みなさんがそこで生きているというのを感じました。地区が変わればみんなそれぞれの活動をしていて、その場所その場所で違って、能登という場所は一緒だけど全然違う、それをワークショップを見て感じていました。

マリーさんのやっている様な文化的なものやアートには、能登のみなさんは普段あまり触れていない感じでしたが、小学生も楽しんでいて、一般向けワークショップでもマリーさんに興味を持ってやってくれていたなと思うので、こういうことを少しずつやっていけば、それが根付いていくのかなと思いました。

AIR受け入れ先(土とDISCO) 女将 サナさん

アーティスト・イン・レジデンスの受け入れをするのは初めてでした。マリーさんの宿泊先は別でしたが、ほぼ毎日2人がやって来て、作品制作をしたり、いろんな話をしました。

でも実は、最初すごく不安で、アーティスト・イン・レジデンスの意味は言葉ではわかっているものの、自分は一度も関わったことがなくどうしたらいいかわかっていませんでした。

彼女が来て、ワークショップなどの活動を見ているうちに、気張らなくても自然でいいんだなというのがわかりました。彼女が日常に自然と入って来てくれて、毎日「あれはないか、これはないか」と聞いてくれて、本番前日にも「衣裳で使いたいものがある」というのを探すのも楽しくなりました。

マリーさんのワークショップは計3ヶ所で行われました。震災後の能登では、ヨガや歌など分かりやすいものはボランティアで皆さんが実施してくれていますが、マリーさんのワークショップはとっても不思議で、私も初めてやることばかりでした。例えば“目を瞑って鬼ごっこをする”というウォーミングアップがあり、しかしそれがめちゃくちゃ盛り上がり、うちの近所のおじいちゃんおばあちゃんたちがきゃっきゃと楽しんでいるのにびっくりして、（なんだ、いけるじゃん）と思いながら参加していました。能登町の人たちもマリーさんのような人を受け入れられるんだ、ということに個人的にとっても嬉しく思いました。

最後の成果発表に使ってもらった土とDISCOの蔵は、地震で土壁が全て落ちてしまい、その壁を自分たち家族でどうにか塗り直して使っています。今もボロボロではあるんですが、そこで行われたマリーさんのパフォーマンスに、すごく鳥肌が立ちました。マリーさんの作品は「回復と発見」というタイトルだったんですが、地震で崩れ落ちてしまい、私たちの手で塗り直された蔵の壁を背景に、能登が回復していく様子をブルーシートや三角コーンや身体や映像を使って表現してくれました。マリーさんはドイツからやって来て、能登については元々全然知らない方なのに、マリーさんのパフォーマンスを見て能登の人たちが地震で苦しんだことが走馬灯のように蘇って来ました。そして、震災で壊れた蔵を直し新しいことを始めようとして

しているその場所で、マリーさんがこのパフォーマンスをしてくれたことがめちゃくちゃ嬉しくて、すごく前に進んでいる感じがして、私の心が一番踊っていました。私とその蔵で行っている「蔵をDISCOに」というものをパフォーマンスにも取り入れてくれ、偶然にもマリーさんの誕生日がパフォーマンス前日だったこともありバスデーパーティーの要素も含み、まるでクラブのようになって、お客さんも楽しんでいて、本当に素晴らしいパフォーマンスでした。

こんな機会を与えてくれてありがとうございました。



公認アドバイザー 乗越たかおさん

さきほど「日常のものを使ってパフォーマンスをした」とおっしゃっていましたね。

僕らの日常は毎日の中に埋もれて行ってしまうものですが、アートは日常を再発見していくものだと思います。通常であればピクニックなどの楽しいことに使うブルーシートが、北陸では進んでいない復興の現場に使われている。ブルーシートは同じでも使われ方や状況で、その意味はまったく違ってきます。同じようなことは日常の中に山ほどあって、アートはそういった意識から漏れているものをもう一度発見すること、そこに価値を見出して人と共有して互いに理解を深めていける、それが大事なことだと思います。

本当に素晴らしい滞在だったのだらうと思います。

活動報告 [金石×韓国]

滞在・制作場所：金石町家(仮)

招聘アーティスト：コ・イルド (고일도/Ko il do)

アシスタント：イム・ジェホン (임재홍)

サポーター：上野 賢治 協力：門阪翔大 (金石町家(仮))



金石町家(仮)

[プロフィール]

Ko il do (コ・イルド)

韓国を拠点に活動する振付家。日常生活の中にある動きや感情をもとに、ジャンルにとらわれない自由なスタイルで独自のダンス作品を創作。人生と芸術のつながりを大切にし、他分野とのコラボレーションや空間演出にも積極的に取り組んでいる。

韓国芸術批評家協会「ヤング振付家賞」受賞。MODAFE、SCF、NDAなど、国内外の国際ダンスフェスティバルに多数招聘。新しい表現に挑みながら、観客と出会う“場”を創り続けている注目のアーティスト。

[実施内容]

・スペシャルワークショップ

日時：7/16(水)19:00~20:30 場所：金沢女性センター 参加費：一般2,000円 学生1,000円

対象：一般市民・年齢問わず 参加人数：13名

・成果発表パフォーマンス

日時：7/21(月/祝)14:00~ 場所：金石町家(仮)

観覧料：一般1,500円 学生1,000円 中学生以下500円

対象：一般市民 来場者人数：25名

タイトル 「金石との初めての出会い」 (내가 처음 만난 가나이와/First time meet Kanaiwa)

振付：コ・イルド

出演：氷見房子、イム・ジェホン 音楽/サポート：上野賢治 照明：宮向 隆

【創作ノート】

本作品は、韓国人の振付家が金石地域で「見て、聞いて、体験したこと」をもとに創作されたダンス作品です。日本語、金石の人々の優しさ、祭りの起源、神や妖怪といった要素を通して、振付家はこの地の伝統や文化に触れました。そしてそこから感じ取った「この土地の過去の人々が、感じ考え、願ってきたこと」が現代にどのように受け継がれているのか。また、韓国から来た“私たち”がそれをどのように感じ、捉えるのかについて考察し、舞台上で再解釈・表現した作品です。

콘셉 : 한국인 안무가가 가나이와 지역에서 보고 듣고 경험한 것들을 기반으로 만들어진 작품이다. 일본의 언어와 가나이와 사람들의 친절함, 축제의 기원, 신과 요괴 등, 가나이와의 전통과 문화를 경험하면서 안무가가 느낀 이곳 사람들의 역사적 바램이 현대적 모습으로 어떻게 유지가 되어있을지, 또 한국에서 온 우리는 어떻게 감각하게 되는지에 대해 고찰하는 작품이다.

This performance is a work based on what a Korean choreographer has seen, heard, and experienced in the Kanaiwa region. How the historical wishes of the people here, which the choreographer felt while experiencing the Japanese language, the kindness of the Kanai people, the origin of the festival, gods and monsters, and the traditions and culture of Kanai, are maintained in the modern form, It is a work that examines how we feel from Korea. And it is a work that considers and reinterprets how we from Korea see this and puts it on stage.



翁・天狗・鬼の面

北陸Regionダンスフェスティバル2025感想

コ・イルド (고일도/Ko il do)

私はこれまで一度も日本を訪れたことがなかったので、今回のレジデンシーには大きな期待を抱いていました。日本の人々はとても親切で、いつも私たちに明るく接してくれました。特に日本人の関係者の方々はそばで多くのサポートをしてくださり、そのおかげで制作もスムーズに終わることができました。

今回のレジデンシーでは、日本人の文化を知りたいという思いがあり、制作の出発点として「文化」をテーマに設定しました。そうして彼らの文化をリサーチしていくうちに、自然と「伝統」についても学ぶことができました。金石地域の大きな伝統行事として「金石夏祭り」があることを知り、この祭りをよりよく知るために、祭りを準備している人々を訪ねました。そこで私は、日本の伝統的な妖怪である鬼、天狗、翁(おきな)の存在を知りました。これらの妖怪たちは、それぞれに際立った個性を持っており、今回のレジデンシーで最も興味を引かれたポイントでした。

また、近所の住民の方々からもたくさんの助けをいただきました。祭りで使われる歌や伝統的な遊び、さらには妖怪の仮面と一緒に、レジデンシー期間中に使ってくださいと自転車まで貸していただきました。その自転車は作品制作とは直接関係のないものでしたが、この地域の方々の温かさを深く感じるものでした。

「もしかすると日本の文化とは、他者に温かさを与えることなのかもしれない」—そんな思いが浮かびました。まるで自分のことのように常に助けてくれるレジデンシーの関係者やスタッフ、調査の中で出会った地域の方々の積極的な姿勢や優しさ。彼らがいつも笑顔で迎えてくれる姿がとても印象深く、だからこそ、今回の作品も温かく締めくりたいという気持ちになりました。

この作品を観に来てくださった方々に、そんな思いがどこまで伝わったかは分かりませんが、日本で感じたこの「温かい感情」は、今後の私の作品制作に大きな影響を与えるだろうと確信しています。

호쿠리쿠 페스티벌 후기

日本を 한번도 가본적 없었던 나는 이번 레지던시에 많은 기대를 하고 갔다. 일본 사람들은 매우 친절했고 언제나 우리를 밝게 대해줬다. 특히 일본인 관계자 분들이 옆에서 많은 도움을 주었고, 덕분에 작업도 수월하게 마무리했다.

이번 레지던시를 통해 일본 사람들의 문화를 알고 싶었고, 그렇기 때문에 작업의 시작점으로 문화를 잡았다. 그렇게 그들의 문화를 조사하게 되었고, 자연스럽게 전통에 대해서도 알게 되었다. 가나자와 지역의 큰 전통으로 가나자와 축제가 있다는 것을 알게 되었고, 이 축제를 알기 위해서 축제를 준비하는 사람들을 찾아갔다. 여기서 일본 전통 요괴인 오니, 텐구, 오키나를 알게 되었다. 이 요괴들은 각각의 개성이 두드러지는 요괴였고, 이번 레지던시에서 가장 큰 흥미를 주었던 포인트이다.

또 이웃주민들의 도움도 많이 받았다. 축제 때 사용되는 노래, 전통 놀이, 심지어 요괴들 가면과 함께 레지던시 기간 중 사용하려고 자전거도 받았다. 자전거는 작업과는 별개로 이 지역 분들의 따뜻함이 너무 느껴졌다. 어쩌면 일본의 문화는, 타인에게 따뜻함을 주는게 아닐까? 라는 생각이 들었다. 자기일처럼 항상 도움을 주는 레지던시 관계자와 스태프들, 조사 중에 만난 지역 주민들의 적극적인 모습과 친절함. 이들이 항상 웃어주고 반겨주는 모습들이 나에게 너무나도 인상깊은 경험이었어서 그런지, 이번 작품도 따뜻하게 마무리하고 싶다는 마음이 들었다. 이 작품을 보러왔던 분들에게 그런 마음이 전달이 잘 되었을지는 모르겠지만, 일본에서 느낀 이 따뜻한 감정은 앞으로의 내 작업에 큰 영향을 끼칠것이라 확신한다.



金沢女性センターでのワークショップ

各関係者のコメント（事業報告会より）

サポーター 上野賢治さん

今回は通訳と作品の出演をさせていただきました。

彼らは取材やフィールドワークとして、金石の夏祭りの練習会場に行ったり、銭湯に行ったり、ゴーゴーカレーや回転寿司に行ったりしました。

主にお祭りの練習会が取材のピークで、それが作品の素材になりました。単なる素材というよりも、夏祭りで回れる踊りが生まれた背景や動きの意味を学びました。そしてその有様を見てもらうことによって作品が生まれました。取材はとても大変でした。

制作には私も関わり音・身体による出演をさせていただきましたが、とても和気藹々と進みました。



成果発表公演

AIR受け入れ先(金石町家(仮)) 門阪 翔大さん

金石町家（仮）でのアーティスト・イン・レジデンス（AIR）受け入れは、今年で2年目となります。

当館では、この2年間、北陸Regionダンスフェスティバル以外にも継続的にアーティストを受け入れてきたため、金石の地域の皆さんにとっても、アーティストの訪問が少しずつ日常の風景になってきたのではないかと感じています。

今回の実施にあたっては、地域の方々からも積極的なご協力をいただきました。

中でも印象的だったのは、アーティストのKoさんが地域の方々に対して非常に礼儀正しく、丁寧に接していたことです。初対面でのインタビューや、地域に根づく文化へのアプローチ、そして地域の方々大切にしている「夏祭り」という題材を作品に取り入れる際にも、住民の方々が不快に感じることがないように、Koさんは言葉や振る舞いにとても気を配っていました。

そうした姿勢が伝わったのか、地域の方々はKoさんたちに好意的な印象を持ち、笑顔で交流される姿も多く見られました。成果発表公演に対しても、多くの方が期待を寄せてくださっていたように思います。

公演後に寄せられた感想の中で特に印象深かったのは、「夏祭り」を題材にしたシーンについての声でした。Koさんたちは、祭りの見た目を再現するというよりも、その“スピリット”を独自の解釈で大胆にアレンジし、ときにコミカルに表現していました。しかしそれにも関わらず、ある地域の方は「リスペクトを感じた」とおっしゃっていたのです。

私自身も公演を見ながら、同じような感覚を抱いていました。このような心の通い合いが生まれたことこそ、今回のAIRを通じて得られた大きな成果のひとつだったと感じています。



成果発表公演

公認アドバイザー 乗越たかおさん

私は宝栄美希芸術監督と韓国のダンスフェスで昨年彼らのデュオ作品を観たんですが、彼らの気持ちの優しさやユーモアが伝わってくる作品でした。韓国のダンサーはスキルがものすごく高いので、やろうと思えばいくらでも強く速く踊れるものです。しかし彼らはダンススキルを自慢するのではなくダンスを使って人と語り合おうとする姿勢が見えるアーティストなんです。そういう面でも彼らはこのフェスティバルに向いているだろうと芸術監督と共に選んで決めました。

今回は地元の人たちと触れ合い、ユーモアを含みながらもちゃんとリスペクトのある作品を作ってくれたようで、本当に地元の人々と互いに理解を深めてくれた証拠だと思えます。日本の文化を全然知らない、前情報のないピュアな状態で来て、北陸の人たちと深く触れ合ってくれたことが本当に良かったと思います。

【総評】 黒澤 伸（金沢芸術創造財団）

今回のフェスティバルで招聘された二人のアーティストには、いわゆる”素直さ”を感じています。成果発表を拝見したのみですが、その地に滞在して自分が見たもの、見えているもの、たぶん日本人だったら比較的日常的に近いもの、例えばブルーシートという何も珍しくもないものなど、言って見れば当たり前のものが作品の大切なモチーフとして出てくるというナチュラルさ、私たちにとって特別ではないものがふっと作品中に現れることが、とても面白く、もしこれがもっと長い滞在だったらまた違ったものになるのでしょうか、ほんのわずかな時間に見たものがこの様に化けて出てくる。化けて出て来るとそれらは特別なものとなり、どちらのパフォーマンスも「これは見たことない」というものになっていました。短期間の滞在だからこそリアルで自然体なパフォーマンスになったと思いました。

アーティスト・イン・レジデンスという言葉はある意味では“わざとらしい”言葉です。「アーティスト」というと大袈裟な感じもします。でも実際には人と人としてすごくナチュラル、ごく自然なコミュニケーションというのかやり取りというのか・・・ができていたのだと感じられて、それがこの事業の良さなのだと思います。



コ・イルドさん パク・キョンヒさん(通訳)



マリー・ハーネさん



報告会



黒澤 伸さん

【総評】 乗越 たかお（フェスティバル公認アドバイザー）

実りのある成果を聞くことができ良かったです。今回応募で寄せられた企画内容はどれも非常に多彩な魅力に溢れていました。北陸という場所の文化や震災の状況を理解して、そこにアートを通してより深く知りたいという作品がいっぱいあって、本当にこのフェスの未来に希望が持てると思っています。

この北陸Regionダンスフェスティバルはみなさんが思うダンスフェスティバルとはイメージが違うかもしれません。しかし”ダンスとは何か、フェスティバルとは何か”という定義や使命は日々進化しています。そのような中でこの事業は世界でも最先端のダンスフェスティバルだと言えます。

かつてフェスティバルとはいわば作品の売買の場であり、パフォーミングアーツ・マーケットなどとも言われていたものです。しかし、今はもうそれだけではなく、ダンスのあるいはアーティストの創造環境を改善していくことを重要な使命の一つとしてフェスティバルの責任が考えられるようになって来ました。アーティストは作品を作るだけではなく、作品を通してダンスとは何か、その国の文化とは何かをより深めていく。そのための場としてフェスティバルが必要である、というのが今の世界のダンスフェスティバルの大きな潮流です。

ダンス自体も一昔前までは「一部の特別な訓練を受けた人だけが劇場という閉鎖された空間で見せるもの」というイメージだったと思うのですが、今は違います。ダンスは日常に溢れている、日常の中にダンスが息づいている、アーティストも劇場の中だけで生きていくのではなく社会の中・人の中に入っていき、そして今生きているリアリティを作品化していく。それが本当の意味でのコンテンポラリー（同時代性）ということになります。

単なる作品の売買ではなく、見知らぬ土地に行ってその土地の人々と交流することの重要性は世界中で認識されています。日本の中ではこのフェスが先駆けて取り組んでいると言えるでしょう。

能登地方は100年に一度と言われるほどの震災に見舞われましたが、そこから立ち直ろうとする人たちと接すること、そのような場面に触れることは普通あまりない経験であり、アーティストにとっても千載一遇のフェスティバルだと思います。

今年参加したアーティストも言っていたように、生活の大切さを再発見すると同時に、生活の中にダンスもアートも実はあるんだということをお互いに発見していくフェスになっていくでしょう。

この北陸Regionダンスフェスティバルは芸術監督が一生懸命やっていて、それをいろんな人が支えサポートしている、この体制自体がとても素晴らしいことだと思います。これからどんどん、いろんな国のいろんなアーティストと、さまざまな価値観がここで交流するような素晴らしいフェスになってくれると思っています。そこに僕も微力ながら協力させていただきます。



乗越たかおさん

オンライン中継の様子

[事業をを終えて] 宝栄美希（フェスティバル芸術監督）

昨年度から、アーティスト・イン・レジデンスという新たな形で事業を実施し始めました。今回は、初めて海外からアーティストを招聘し、さらに震災直後で先の見えない状況の中能登町での開催に挑戦するという、非常に不確定な要素の多いプロジェクトとなりました。

心配性な私は、信頼できる方々にサポートやスタッフをお願いしました。その結果、どちらのチームでも私の想像を超える交流や発見が生まれ、最終的な成果発表に至るまでのプロセスそのものが、大きな意味を持つことを実感しました。

招聘した2名のアーティストの作品や活動からは、滞在地域やそこに暮らす人々への深いリスペクトが感じられました。とりわけ、観客を置き去りにしない丁寧な演出がとても印象的で、素晴らしいと感じました。私は現場に頻りに足を運ぶことはできませんでしたが、現地での出来事を聞くたびに、想像をめぐらせ、胸が熱くなりました。

文化芸術活動を通じて、地域や被災地を支援するという取り組みについて、私はいつも「本当に地域の人々のためになっているのか」「自己満足に終わっていないか」と自問しています。

今回の事業では、現地の人々がアーティストと出会い、交流する中で、新たな関係が生まれたり、地域の人々が普段は見せない一面を見せてくれたりする場面が多く見られました。そうした「人と人のつながり」が生まれること自体に、大きな意味があると感じました。目に見える成果やアウトプットだけでなく、プロセスの中で築かれる信頼や対話こそが、かけがえのない成果だったと思います。

また、成果発表の公演では、会場の広さや立地の関係で多くの人が立ち会うことはできませんでしたが、その場にいた観客の気持ちが確かに動いたことは、間違いありません。アーティストと観客の間に、その瞬間にしか生まれない大切な何か、たしかに共有されていたと感じます。

予測できない状況だったからこそ、予想以上の結果が得られた今回の経験に、心から感謝しています。もちろん、毎回こううまくいくとは限りませんが、それでもアーティストやスタッフ、地域の協力者を信じて任せられるような仕組みこそが、理想的なあり方だと改めて思いました。そう感じさせてくれた皆さまに、深く御礼申し上げます。

この事業のように、アーティストが地域にじっくりと関わる取り組みは、単発のイベントと比べて、より深く人々の記憶に残り、個人への影響も確実に生まれます。一度に多くの人や物を動かすことは難しいかもしれませんが、だからこそ地道に継続することが大切であり、それが地域に定着していく確かな道だと思います。

アーティストが地域に関わろうとし、地域の人々がそれを受け入れようとする—そんな双方の働きかけがそれぞれの土地で起こることで、お互いが育ち、変わっていくのだと思います。

これからも、「本当に地域や人々のためになっているか？」という問いを常に心に持ちながら、アーティストが力を発揮でき、関わるすべての人が安心と信頼を感じられる体制づくりに、力を尽くしてまいります。



北陸つなげて広げるプロジェクト

代表 宝栄美希

北陸Regionダンスフェスティバル2025 機構

主催：北陸つなげて広げるプロジェクト

芸術監督/企画制作：宝栄美希

公認アドバイザー：乗越たかお（株式会社ジャパン・ダンス・プラグ）

助成：公益財団法人 澁谷工業学術文化スポーツ振興財団、アーツカウンシル金沢(公益財団法人金沢芸術創造財団)、公益財団法人セゾン文化財団

協賛：加賀建設株式会社、土とDISCO

協力：金石町家(仮)、黒澤伸(金沢芸術創造財団)、鶺川公民館、義本定義、葭田護、嶋田准也、

みやのこしこまち、支那金魚

後援：金沢市、能登町

能登町×ドイツ

アーティスト：マリー・ハーネ

サポーター：ちびがっつ

現地協力：サナ(土とDISCO)



金石×韓国

アーティスト：コ・イルド

アシスタント：イム・ジェホン

サポーター：上野賢治

ゲスト出演：氷見房子

現地協力：門阪翔大(金石町家)



照明：宮向隆、北山もも子

映像撮影：奥 祐司

写真撮影：フォトグラファーNOD 野田 啓

チラシ/Webデザイン：株式会社ヨシタデザイン

運営スタッフ：青木 正子

企画・制作：宝栄 美希



北陸 Region ダンスフェスティバル 2025

北陸唯一の公募型アーティスト・イン・レジデンス(AIR) フェスティバルプロジェクト!

被災地では、対話やワークショップを通して心と体を元気にする被災地復興支援活動も実施。全ての活動をWeb・SNSで発信し、北陸の文化や被災地の“今”を全国・世界へ届けます。

滞在中のアーティストと交流しよう!

能登町 × ドイツ



アーティスト
Marie Hahne
マリー・ハーネ
サポーター:ちびがっつ
AIR場所:能登町

[プロフィール]
1993年、ドイツ・ベルリン生まれ。ヴァイセンゼー芸術大学(ベルリン)で舞台美術と衣装デザインを学び、その後、広島市立大学で現代美術を専攻。2018年より、神奈川とベルリンを拠点にコミュニティアートおよびパフォーマンスアートの分野で活動を展開している。彼女の作品は、ストーリーテリング、動き、声、視覚的要素を融合させた「ハイブリッドな翻訳」を試みるものであり、しばしば演劇の要素を取り入れている。その創作空間は、観客が能動的に関与できるインタラクティブな舞台となる。作品の中では、親密な瞬間と皮肉な距離感の狭間に自ら身を置き、観客がより近づき、探求することを促す。
Web <http://mariehahne.com/>
Instagram @marie_hahne_

スペシャルワークショップ

① 7/17 日 19:00~21:00

会場 鶴川公民館(石川県鳳珠郡能登町鶴川18-128-1)
対象 一般市民・年齢問わず
定員 20名程度
参加費 無料(ドネーションを受け付けます。)

② 7/18 日 14:00~15:00
短時間で気軽に体験!

会場 土とDISCO(石川県鳳珠郡能登町本木2-77-1)
対象 一般市民(ご年配向け)※誰でも参加できます
定員 10名程度
参加費 無料(ドネーションを受け付けます。)

成果発表パフォーマンス

7/20 日 13:00~

会場 土とDISCO(石川県鳳珠郡能登町本木2-77-1)
<https://tsuchi-disco.com/>
定員 30名程度
参加費 無料(ドネーションを受け付けます。)

金石 × 韓国



アーティスト
Ko il do
コ・イルド
サポーター:上野 賢治
AIR場所:金石

[プロフィール]
マーズメント代表。韓国を拠点に活動する振付家。日常生活の中にある動きや感情をもとに、ジャンルにとらわれない自由なスタイルで独自のダンス作品を創作。人生と芸術のつながりを大切に、他分野とのコラボレーションや空間演出にも積極的に取り組んでいる。
韓国芸術批評家協会「ヤング振付家賞」受賞。MODAFE、SCF、NDAなど、国内外の国際ダンスフェスティバルに多数招聘。新しい表現に挑みながら、観客と出会う“場”を創り続けている注目のアーティスト。
Instagram @i.do1992
「マーズメント」Instagram @marsment_

『日本(金石)の古くから伝わる“あそび”』と韓国の伝統的な“あそび”を使った、見る人が参加できるパフォーマンスを作ります。

スペシャルワークショップ

7/16 日 19:00~20:30

会場 金石町家(仮)
(石川県金沢市金石西1丁目27-13)
Instagram @kanaiwamachiya

対象 一般市民・ダンス経験不問
定員 10名
参加費 一般 2,000円、学生 1,000円

成果発表パフォーマンス

7/21 月祝 14:00~

会場 金石町家(仮)周辺
定員 30名程度
参加費 一般 1,500円、学生 1,000円、
中学生以下 500円、未就学児無料

体と感覚のワークを体験して新しい世界をのぞいてみよう!

創作メソッドに触れてフレッシュな感性に出会おう!

北陸Regionダンスフェスティバル2025「報告会」

7/21 月祝 16:00~

会場 金石町家(仮)
対象 だれでも

定員 40名程度
参加費 無料
司会 宝栄 美希
参加者 乗越 たかお(オンライン参加)、
招聘アーティスト、他

世界中のダンスフェスティバルに招かれ活躍している舞踊評論家であり、当フェスティバルの公認アドバイザーでもある乗越たかお氏をゲストにお迎えし、招聘アーティストのAIR報告会を開催します。普段ダンスやアートに関わりがない方でも気軽にご参加ください!

